

危険区域 30km を見る フクシマ写真展

チェルノブイリからフクシマを考える

市民のみなさん。昨年末政府は福島原発の冷温停止状態の宣言を出しました。しかし、福島現地の現実を見ると、それは全く空々しい言葉に聞こえます。原発周囲には報道陣も足を踏み入れることもできません。なかなかその現実にはわからないことばかりですが、写真家の広河隆一さんが水素爆発直後に現地にはいった貴重な写真集をご案内の日時で展示いたします。またチェルノブイリでの惨劇も見てください、当時日本政府や原発推進学者が言っていた「ただちに影響はない」とはいかにでたらめなものであったかを改めて知っていただきたいと思います。 共同展示として、ジュゴン保護キャンペーンセンター、コトパンジャンダム被害住民を支援する会の展示を行います。



住民が避難したあとの街にさまよいでた、行き場のない家畜



福島原発から北に 20km ほどの地点に建てられた「立入禁止」の看板

2月 25 (土)

入場無料

26 (日)

クレオ大阪東

1F ギャラリー 両日とも 10:30~17:00



NPO法人 広河隆一 非核平和写真展

共催 ジュゴン保護キャンペーンセンター

日本のODAを問うコトパンジャンダムの

被害住民を支援する会

共 同 展 示

辺野古大浦湾と 沖縄新基地建設

- ☆ 沖縄 辺野古・大浦湾の海は、ジュゴンの生きる、生物多様性の豊かな美しい海です。アオサンゴの群落や様々な魚。そして海藻藻場はジュゴンの大切なえさ場です。
- ☆ ジュゴン保護キャンペーンセンター(SDCC)は、この海を埋め立てる新基地建設に反対し、「基地ではなくジュゴン保護区」をめざして活動しています。今回辺野古大浦湾の写真を展示します。



インギンチャクと共生するクマミの群れ(「クマノミ城」大浦湾)

- ☆ ジュゴン♡フラッグキャンペーンにご協力を

今年9月に韓国の済州島でIUCN第5回世界自然保護会議が開催されます。これにむけ、SDCCは「ジュゴン♡フラッグキャンペーン」をしています。ジュゴンのイラストや沖縄の海を守るメッセージを自由にフラッグに描いていただき、済州島ではためかせます。写真展会場でも集めます

- ☆ 「わったー海の写真展 大浦湾の生き者たち」

3月24日、25日 とよなかステップ(阪急豊中駅下車すぐ)にて、SDCC主催の写真展を行います。写真提供はダイビングチームスナックスナフキン。

くわしくは、SDCC
HPに今後掲載します。



日本のODAを問う

1996年、日本からのODA(政府開発援助)約312億円でインドネシア・スマトラ島中部にコトパンジャン・ダムが建設されました。この高さ58m・堤長258mの水力発電ダムにより、124平方Kmの地域が水没し、23000人の家や農地が奪われました。強制移住先は、水も手に入らないほどの不毛な土地で住民たちは農業ができなくなり、満足な食事でもできない、子どもたちは学校をやめざるをえない、そんな生活を強いられました。私たちの税金や郵便貯金などから拠出されたODAが住民たちを苦しめているのです。住民及びスマトラ象などの希少動物を含む自然生態系を代理するインドネシア環境フォーラム(WALHI)は、日本政府・JICA・東電設計を相手にダム撤去と補償を求めて提訴しましたが、2009年9月東京地裁は棄却、却下の不当判決を下しま

した。原告は控訴し東京高裁で控訴審が進められ、3月2日に第1回口頭弁論が開かれます。



お問い合わせ先

広河隆一 非核平和写真展 E-mail syashinten@za.ztv.ne.jp 電話 090-9692-0377(前川)

ジュゴン保護キャンペーンセンター(SDCC) E-mail info@sdcc.jp URL <http://www.sdcc.jp/>

コトパンジャン・ダム被害者住民を支援する会 <http://www.kotopan.jp/> 電話 090-8382-9487(三ツ林)

原発をなくそう



ナターシャの葬儀(2006.3 キエフ)

福島原発事故を目の当たりにして、私たちはチェルノブイリの事故を思い出しました。子どもたちは急性リンパ白血病、甲状腺がんにかかり、ほとんど助からない病気でした。600km離れたジェルジンスク市のターニャは事故から10年後に突然放射能の病魔が襲い、死にいたしました。学校の中でも評判の元気で明るい少女でした。

このような写真を見るとき、「ただちに影響はない」強制避難は20kmまでとしてきた日本政府、御用学者の人命軽視こそ批判されねばなりません。いますぐ、全国の原発をなくしていきましょう。